

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371100948		
法人名	株式会社フレンズハウス		
事業所名	グループホーム フレンズハウス七反野 1階		
所在地	名古屋市港区七反野一丁目904番地		
自己評価作成日	令和4年9月13日	評価結果市町村受理日	令和5年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2371100948-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階
訪問調査日	令和4年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近くの大小様々な公園へ散歩に出かけたり外出行事をする事で季節を感じてもらい、地域の方々との触れ合いながら健やかな日々を過ごしています。敷地内に畑があり、季節の野菜を育てて大きく育つのを楽しみにしたり、庭の池の鯉に餌をあげながら日向ぼっこをしたり、ますます元気に外出が出来るよう室内で出来る運動したり、毎日楽しんでもらいながら自立支援に努めています。また地域の行事に積極的に参加して、地域の一員として地域との触れ合いを大切にしながら生活できるよう心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して17年を経た事業所は幹線道路から一筋中に入り、近くにはスーパーや商店、小学校やクリニック、住宅があり、生活に便利な地域に位置している。庭に池があり、南向きで陽当たりが良い二階造りの落ち着いた連棟である。「地域との交流を大切に」を信条に、「誰とでも笑顔であいさつ、気軽に立ち寄れる雰囲気作り、楽しみながら地域行事への参加」を目指して、入居者に向き合いケアに努めている。地域行事には地域の一員として準備段階から職員も参加をし、地域貢献につながるようしている。日常的に買い物や喫茶店、外食や水族館などへ出かける機会があるが、今年も新型コロナウイルスの影響で滞っている。食事は、職員が立てた献立に入居者の好みや嗜好を配慮して毎食手作りしている。菜園で収穫した野菜も食卓に彩を添えている。ホーム内でも外食気分が味わえるように、セレクト形式の食事の提供や職員手作りのサプライズ弁当、バーベキューや手作りおやつなどは食欲をそそる楽しみの一つとなっている。クラブ活動の日にはアートフラワーや壁掛けなど男性でも楽しく取り組めるような作品作りをしたり、心ゆく読書や趣味の刺繍をしたり、野菜の収穫などを通して今まで培ってきた経験を日常に生かしている。リビングの大きめのソファに腰かけゆっくりと新聞やテレビを見たり、談笑をして穏やかな暮らしをしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念とは別に事業所としての理念を作成し各ユニットごとに掲示。業務前や処遇会議での確認を行っている。	事業所理念を各フロアに掲示している。「地域との交流を大切に」を大項目として、だれとでも笑顔であいさつ、気軽に立ち寄れる雰囲気作り、楽しみながら地域行事への参加を目標にして、毎日の申し送りや毎月の処遇会議で再確認し行動の指針として日々のケアを振り返りながら共有と実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し地域の行事等に積極的に参加している。管理者は月1回の定例会に参加して交流している。現在はコロナ禍で定例会のみの参加。	町内会に加入し、管理者は毎月定例会に参加して情報交換をしている。毎年運動会や防災訓練などの町内会行事に参加しているが、引き続きコロナ禍により町内会の行事や小学校や幼稚園児との交流、ボランティアの慰問、外食など殆どの行事が中止となっている。コロナの感染状況を確認しながら戸田川のふれあい祭りの参加を予定している。現状では公園までの散歩や地域の方の好意で施設周りの清掃や草取りをしていただく方との交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	玄関には「子供110番」の看板を掲げている。介護相談にも積極的に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス状況を報告する中で参加者の意見を伺う。地域行事等の情報交換をし、地域との触れ合いをサービスの一環として取り入れている。コロナ禍の為、地域行事が中止となっている。	入居者、町内会長、民生委員、いきいき支援センター職員、福祉事業関係者の参加を得て2か月に1回実施している。引き続きコロナの感染状況を確認しながら書面開催と対面での開催を選択している。入居者と家族は面会制限があるため出席は控えている。案内や運営推進会議議事録は参加者に送付している。書面開催時の意見等はアンケートで返信できるよう工夫をしている。会議開催時に出された意見は、職員で協議しサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は、情報の交換の場でもあり、サービスの向上に繋がる機会でもあることを入居者家族に知っていただき、より多くの家族が参加できるように、七反野のおたよりなどで開催案内を発信していくことを期待したい。また、家族に議事録を送付し、興味や関心を持たれた方などの参加を促す取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	港区事業者連絡会に参加し、区役所・社会福祉協議会等の方々との意見交換を行っている。また民生委員・町内会長にも意見を頂いている。	介護計画の更新や申請の代行手続きなどは本部事務局を通して提出したり直接郵送したりすることが多くなっている。役所に出向いた折には、入居者の状況の報告や相談、サービスの内容などを伝え直接アドバイスや指導を受けたりしている。また2か月に1回は保護係が施設に訪れ、相談をするなど良好な協力関係が保たれている。介護フェアーや研修会などもコロナの感染予防のため今年度も中止となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会・委員会等を3ヶ月に1回行っている。また日々の業務で気になる点などはその都度話し合いをしている。	身体拘束委員会を年4回開催し、適正化推進のための基本方針の5項目について職員による検討会が行われている。職員は、人としての尊厳を大切にして「3ロック」をしないケアを周知理解を深めるようにしている。毎月のミーティングでは、特に馴れ合いが拘束に発展しないよう注意を促し、拘束や虐待の芽にならないよう配慮している。現在はコロナ禍によりフロアの交流行事は留まっているが、束縛感のない生活が送れるよう配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、虐待の意味から学べるように身体的虐待だけでなく、その他についても学べるよう日々話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護が必要な利用者には積極的に活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項については時間をかけて説明をしている。不明な点があれば、その都度の説明をする。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	近況報告を行いながら、要望を伺えるようにしている。苦情等も話しやすい雰囲気作りを心がけている。意見箱の設置もしている。	入居者からは日々の関わりの中から意見や要望を聞いている。家族からはコロナ禍により面会も制限されているため、病院の受診時や届け物で訪問した時、電話などの機会を見つけて聞くようにしている。意見や要望などは、申し送りノートに記録して会議で検討し、ケアや業務改善に役立てている。お便りを2か月に1回発行し、入居者の日ごろの様子を記載して家族に安心を届けている。意見箱を設置して意見を述べやすい環境を整えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の人事考課を行い、個人面談を行うなかで職員の意見を聞く場を設けている。また日々の業務を行う中でも意見が言いやすい環境作りを心掛けている。	日常の業務の中や申し送り時、カンファレンスなどで職員から提案や要望を聞くなどして運営に反映させている。職員は年2回、パート職員は年1回、人事考課を導入して自己評価を行い、自らの力量を正しく理解し、目標を持ってより良いケアに繋げるよう努めている。また、個人面談や随時話し合う機会を設け、業務や職場環境などに反映させている。キャリアアップ研修は、職員の希望に沿った支援をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修や資格取得にむけた支援を行っている。向上心を大切にしていける環境作りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会に職員が参加できるような支援を行っている。また法人内での勉強会を行い知識向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	港区事業者会及び施設部会に参加し交流を取りながら意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にも面談を行い家族様・本人様に希望や不安に感じている事を伺っている。職員ともに不安等は共有して利用者様が安心して生活出来る支援をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前情報をもとに利用者様の様子観察を行い、気づきがあれば家族に報告し相談させて頂く。また意見を言いやすい関係と環境作りを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者及び家族から要望を聞き、必要なサービスを支援し、必要に応じて見直しを行い、その時に必要なサービスを調整する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介護を通しながらも共に生活をする中で互いに尊重し合い喜び合える関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族はもちろん、友人等の面会や電話等での交流の支援をしている。意見等にも耳を傾けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との連絡が取りやすい環境作りをしている。手紙や電話・面会を支援している。現在はコロナ禍にて面会は中止	アセスメントシートで生活歴や馴染みの人、場所を把握し、今までの生活が再現できる支援を目指している。家族や友人、知人の面会については、コロナ禍により自粛しているが、状況を確認しながら情報を発信し臨機応変の対応をしている。今は馴染みの人や場所には出かけられないが、電話や手紙を利用して関係が途切れないよう継続支援に努めている。また、クラブ活動の作品作りや読書、趣味の刺繍、日常の家事や野菜の収穫などを通して今まで培ってきた経験を日常に生かしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や能力を理解しながら、レクリエーションやお手伝い等と一緒にしながら、良い関係が保たれるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後であっても、家族からの相談等の協力を受ける。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との関りの中から希望を聞きこぼさない、また必要な支援の発見に努め、ケアプランに取り込んでいる。	日々の暮らしの中で散歩や入浴の時、各部屋の巡視時などでその方が喜ぶ話題を把握し笑顔になれる関りや会話をしながら思いや意向を汲み取っている。感じ取ったことは申し送りノートに記入して会議などで話し合い、職員間で共有してケアに繋げている。普段あまり話さない方は、1対1になれる機会を見つけたり夜間の就寝介助の折などタイミングを見計らって意向を聞いたり、家族と情報を共有しながら支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族にバググランド表を記入していただき、そのほかについては利用者・家族と関わりの中で発見できる関係作りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中での気づきは、他職員への申し送りをしたり、時には会議で意見交換をし、職員が共有し統一した支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前に希望要望を伺いケアプランの作成をしている。また生活をする上で出てくる課題等については、話し合いをしながら見直しをしている。	職員は入居者や家族の意向を聞き、申し送りノートや個別記録に残し、問題点やケアについて話し合っている。職員はケアプランのチェック表を利用し、ケア目標を毎日確認しながら情報を共有し、毎日実践しながら効果が得られるよう努めている。計画作成担当者は3か月ごとにモニタリングを実施し、それと同時に計画の見直しを行っている。ケアカンファレンスでは家族の要望や意向等を踏まえながら、問題や課題について話し合い現状に即した介護計画を作成している。状態が変化した時は随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録・ケアプランチェック表を記入し職員間での情報共有を行っている。また話し合いが必要な場合にはすぐに対応し、より良い介護に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の要望に対応できるよう家族と協力し、外出や外部の病院への受診をおこなっている。現在はコロナ禍のため外出は中止している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事に参加している。消防署や交番等に出向き、情報や指導を頂きながら、災害時での協力をお願いをしている。コロナ禍で行事は中止。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通常は提携医院の往診・訪問看護が対応している。その他に希望があれば、訪問マッサージを依頼したり、必要であれば外部受診を家族と協力して行っている	入居時にかかりつけ医か提携医かの希望を聞いているが全員提携医に変更している。月2回の内科医の往診に調剤薬局が同行している。薬は個装され飲み間違いがないよう印字され、保管している。週1回歯科衛生士による口腔ケアと必要に応じて治療が受けられる。希望によりマッサージも依頼できる。専門科の受診は提携医が情報提供書を作成し病院の予約を取った上で家族が対応している。常駐看護師や訪問看護師とも連携を取り健康管理に努め、身体状況に変化があった時や緊急時は、24時間体制で提携医や看護師、訪問看護師、協力医療機関による連携体制のもと、速やかに適切な医療が受けられるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を実施している。職員の中にも看護師がおり、職員が質問しやすい環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携医と医療機関のソーシャルワーカーと連携をし情報交換を密に取りながら利用者がスムーズにホームへの復帰が出来るように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化時における医療サービス提供内容に関する指針」を入居時に説明し同意を頂いている。その上で家族・利用者の希望を考慮し、主治医と相談し、職員へ説明し理解を求めながら看取りも行っている。	家族には、重度化や終末期、看取りについて入居時に、指針に沿って説明し、意向や希望を確認している。重度化する可能性がある場合や状況が変化した場合は早めに家族に報告して、医師や看護師、その他関係機関と話し合いながら、入居者にとって最善の援助ができるように努め、可能な限り希望に添うよう支援をしている。職員として看護師が常駐しているので、職員を含め入居者や入居者家族も安心して看取に向かう体制が整っている。経験の浅い職員に対する教育やメンタルケアは課題となっている。	全職員が不安なく看取りに取り組むために、新しく入職した職員や経験の浅い職員の研修や勉強会を計画されることを望みたい。また、メンタルケアも必要になる場合もあるためベテランの職員も含め常駐の看護師による勉強会や研修等で再度確認し、事業所全体で看取りに向けて取り組めるよう期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアル・提携医や管理者への連絡体制等を整えている。また日々の業務中で話し合いや説明を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に3回の防災訓練を実施している。消防署への報告時には意見をうかがいながら訓練に役立っている。月1回は利用者と一緒に階段誘導訓練を行っている。	年3回火災や地震、洪水、津波など様々な災害を想定した訓練を昼間、夜間帯の職員体制で実施している。避難誘導や避難経路の確認と通報訓練を実施したり、小学校まで避難する訓練も行っている。問題点は職員で話し合い、改善に努めている。水害時の危険性も考慮して毎月階段誘導訓練を実施している。毎年、消防署員の訪問調査を受け、困り事の相談や助言を得るなど協力体制が整えられている。備蓄品は、リスト化され水や食料など3日分が各フロアと外倉庫に分けて保管している。また、簡易トイレやアルミシート、ラジオ等も揃えている。地域の防災訓練に職員が参加したり運営推進会議などで援助をお願いするなどして協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を否定する事のないように傾聴し尊重する対応等を心掛けている。居室に入る際にも必ず声をかけて入室している。	一人ひとりのこれまでの生き方を尊重し個々の生活スタイルを守り、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。日々のケアの中で、馴れ馴れしさや特に雑になりがちな言葉使いなど、互いチェックし合い、気づいた時には、その場で対応するようにしている。男性の入居者の居場所作りにも配慮して、思いやりと笑顔あふれる暖かい環境作りを大切に支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	しっかりとコミュニケーションを取りながら、言葉だけでなく表情も観察しながら自己決定が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の気持ちや体調等を考えながらその人らしい生活の支援を日々考えて取り入れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を利用し、利用者の好みに合わせた髪形にしてもらう。希望者には、今まで通っていた理美容室も可能である。現在はコロナ禍で中止。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る限り手作りで提供している。一緒に作ったり、作り方を教えて頂く事もある。食事の様子や日々の中でのつぶやきもメニュー作りの参考にしている。	野菜は業者から旬の食材を購入し肉や魚は職員が買い物に行っている。職員が立てた献立を基に季節の食材を取り入れ、入居者の好みや嗜好に配慮して毎食手作りしている。菜園で収穫した野菜も食卓に彩を添えている。コロナ禍により入居者による調理や準備、後片付けは自粛している。食事はその方のペースに合わせた食事時間を整え、密を避けるため居室と食堂と分けて食事をしている。外食の自粛が続いているため、外食気分が味わえるよう、セレクト形式の食事の提供や職員手作りのサブライズ弁当、バーベキュー、手作りおやつなど施設の中で楽しみながら気分転換を図る工夫をしている。職員も同じ食事をして味付けやメニュー開発などに役立っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の接種量の把握をしている。接種量が少ない利用者には出来るだけ好みの物を提供出来るような工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回訪問歯科を利用し、口腔ケアをおこなっている。また必要な時は治療も行っている。歯科衛生士からの指導を取り入れ、利用者の口腔ケアの介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄リズムの把握に努めながらトイレ誘導を行っている。出来る限りの自立を目指し、職員へは、日頃から自立支援の指導をしている。	トイレでの排泄を基本としており、尿意を感じ自力で排せつを目標としている。排せつチェック表を基に個々の排泄パターンを把握し、さりげない声かけやタイミングを工夫してその人に合ったトイレ誘導に努めている。布パンツで過ごしている入居者もいる。夜間でも、尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切に、声掛けや見守りの支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や運動の支援を行っている。水分補給もしっかりと摂取できるように飲み物や食事の内容を工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調を考慮しながら1日置きの入浴を実施している。季節や好みのお風呂剤を使用したり、会話を楽しんだり、心地よい環境作りに努めている。	入浴は1日おきを実施し、希望があればいつでも足浴や入浴できる支援に努めている。お湯は清潔に配慮して足湯をしながらたっぷりのお湯で入浴している。リフトを設置しどなたでも入浴できる環境を整え、冬季はヒートショックにも配慮している。また、季節のゆず湯やしょうぶ湯、入浴剤などを利用して入浴を楽しめる工夫をしている。各自お気に入りのシャンプーやリンスを用意している。入浴を拒む方には、声かけを工夫し、気分転換を図って気持ちよく入浴できるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の希望の飾りや今まで使っていた家具等を配置し、少しでも安心できる環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬内容の理解をする。特に薬に変更があった場合等には副作用等も考えながら様子観察を行い。変化があった場合には提携医に連絡が取れる体制を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや軽作業等を職員と一緒に行事で、新たな発見を見つけている。行事等では好きな事を取り入れ楽しんで頂ける内容にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と相談し出来る限りの外出支援はしている。また日々の生活でも散歩や買い物などの外出支援を行っている。現在はコロナ禍で外出は中止。	日常的に散歩に出かけられる環境にあり、お天気の良い日には、施設周りの散歩や庭の池の鯉を眺めたり、畑の野菜の収穫をしたりして外気に触れる機会を大事にしている。引き続きコロナ禍により喫茶店や外食、買い物などは自粛しているが、コロナの感染状況を確認しながらピクニックや公園に出掛けている。今後安心して外出できるような状況になったときには、お弁当を持って公園や入居者の希望する外出行事ができる事を心待ちにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は基本的に管理者が管理している。不安がある利用者にはその都度の説明をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて電話は使って頂いている。利用者の代わりに電話を掛ける場合や手紙の代筆も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはテーブル席とソファ席がある。また皆さまで作成した季節の飾りや行事の写真等を飾り、ゆったりと過ごせる環境作りをしている。	居間と食堂がワンフロアで、明るく風通しの良い開放感がある。リビングの壁には、クラブ活動で作った四季折々の作品や入居者の刺繍の作品などが飾られ、華美にならないよう配慮して温かみのある生活空間としている。リビングでは、リハビリを兼ねたウォーキングやクラブ活動の一環である季節ごとの作品作りをしたりソファに座ってのんびり過ごすなどそれぞれの好みの場所で居心地よく過ごせる環境を整えている。食卓テーブルにはパーティションを立て感染予防に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには食事用のテーブルとソファを設置している。食事以外の時間ではソファで気の合う仲間と過ごす事が出来る工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には今までに使っていた家具や飾りや家族の写真等を飾り、落ち着けるようにしている。	居室入り口に表札と季節感のある作品を飾り、居室には使い慣れたベットや椅子、筆筒や仏壇、テレビなど自宅で使用していたものを持ち込み、入居者それぞれの好みの生活様式で居心地の良い環境づくりをしている。また、愛着のある手作り作品やお花を飾って自分らしく落ち着いて過ごせる配慮をしている。清掃を自身で行い清潔感のある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで、リビングの壁には手すりを設置している。危険のないように見守りや付き添いをしながら少しでも自立出来る工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371100948		
法人名	株式会社フレンズハウス		
事業所名	グループホーム フレンズハウス七反野 2階		
所在地	名古屋市港区七反野一丁目904番地		
自己評価作成日	令和4年9月13日	評価結果市町村受理日	令和5年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2371100948-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階
訪問調査日	令和4年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近くの大小様々な公園へ散歩に出かけたり外出行事をする事で季節を感じてもらい、地域の方々との触れ合いながら健やかな日々を過ごしています。敷地内に畑があり、季節の野菜を育てて大きく育つのを楽しみにしたり、庭の池の鯉に餌をあげながら日向ぼっこをしたり、ますます元気に外出が出来るよう室内で出来る運動したり、毎日楽しんでもらいながら自立支援に努めています。また地域の行事に積極的に参加して、地域の一員として地域との触れ合いを大切にしながら生活できるよう心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して17年を経た事業所は幹線道路から一筋中に入り、近くにはスーパーや商店、小学校やクリニック、住宅があり、生活に便利な地域に位置している。庭に池があり、南向きで陽当りが良い二階造りの落ち着いた連棟である。「地域との交流を大切に」を信条に、「誰とでも笑顔であいさつ、気軽に立ち寄れる雰囲気作り、楽しみながら地域行事への参加」を目指して、入居者に向き合いケアに努めている。地域行事には地域の一員として準備段階から職員も参加をし、地域貢献につながるようしている。日常的に買い物や喫茶店、外食や水族館などへ出かける機会があるが、今年も新型コロナウイルスの影響で滞っている。食事は、職員が立てた献立に入居者の好みや嗜好を配慮して毎食手作りしている。菜園で収穫した野菜も食卓に彩を添えている。ホーム内でも外食気分が味わえるように、セレクト形式の食事の提供や職員手作りのサプライズ弁当、バーベキューや手作りおやつなどは食欲をそそる楽しみの一つとなっている。クラブ活動の日にはアートフラワーや壁掛けなど男性でも楽しく取り組めるような作品作りをしたり、心ゆく読書や趣味の刺繍をしたり、野菜の収穫などを通して今まで培ってきた経験を日常に生かしている。リビングの大きめのソファに腰かけゆっくりと新聞やテレビを見たり、談笑をして穏やかな暮らしをしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念とは別に事業所としての理念を作成し各ユニットごとに掲示。業務前や処遇会議での確認を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し地域の行事等に積極的に参加している。管理者は月1回の定例会に参加して交流している。現在はコロナ禍で定例会のみの参加。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	玄関には「子供110番」の看板を掲げている。介護相談にも積極的に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス状況を報告する中で参加者の意見等を伺う。地域行事等の情報交換をし、地域との触れ合いをサービスの一環として取り入れている。コロナ禍の為、地域行事が中止となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	港区事業者連絡会に参加し、区役所・社会福祉協議会等の方々と意見交換を行っている。また民生委員・町内会長にも意見を頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会・委員会等を3ヶ月に1回行っている。また日々の業務で気になる点などはその都度話し合いをしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、虐待の意味から学べるように身体的虐待だけでなく、その他についても学べるよう日々話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護が必要な利用者には積極的に活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項については時間をかけて説明をしている。不明な点があれば、その都度の説明をする。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	近況報告を行いながら、要望を伺えるようにしている。苦情等も話しやすい雰囲気作りを心がけている。意見箱の設置もしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の人事考課を行い、個人面談を行うなかで職員の意見を聞く場を設けている。また日々の業務を行う中でも意見が言いやすい環境作りを心掛けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修や資格取得にむけた支援を行っている。向上心を大切にしていける環境作りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会に職員が参加できるような支援を行っている。また法人内での勉強会を行い知識向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	港区事業者会及び施設部会に参加し交流を取りながら意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にも面談を行い家族様・本人様に希望や不安に感じている事を伺っている。職員ともに不安等は共有して利用者様が安心して生活出来る支援をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前情報をもとに利用者様の様子観察を行い、気づきがあれば家族に報告し相談させて頂く。また意見を言いやすい関係と環境作りを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者及び家族から要望を聞き、必要なサービスを支援し、必要に応じて見直しを行い、その時に必要なサービスを調整する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介護を通しながらも共に生活をする中で互いに尊重し合い喜び合える関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族はもちろん、友人等の面会や電話等での交流の支援をしている。意見等にも耳を傾けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との連絡が取りやすい環境作りをしている。手紙や電話・面会を支援している。現在はコロナ禍にて面会は中止		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や能力を理解しながら、レクリエーションやお手伝い等を一緒に行いながら、良い関係が保たれるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後であっても、家族からの相談等の協力を受ける。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との関りの中から希望を聞きこぼさない、また必要な支援の発見に努め、ケアプランに取り込んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族にバググランド表を記入していただき、そのほかについては利用者・家族と関わる中で発見できる関係作りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中での気づきは、他職員への申し送りをしたり、時には会議で意見交換をし、職員が共有し統一した支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前に希望要望を伺いケアプランの作成をしている。また生活をする上で見えてくる課題等については、話し合いをしながら見直しをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録・ケアプランチェック表を記入し職員間での情報共有を行っている。また話し合いが必要な場合にはすぐに対応し、より良い介護に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の要望に対応できるよう家族と協力し、外出や外部の病院への受診をおこなっている。現在はコロナ禍のため外出は中止している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事に参加している。消防署や交番等に出向き、情報や指導を頂きながら、災害時での協力をお願いをしている。コロナ禍で行事は中止。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通常は提携医院の往診・訪問看護が対応している。その他に希望があれば、訪問マッサージを依頼したり、必要であれば外部受診を家族と協力して行っている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を実施している。職員の中にも看護師がおり、職員が質問しやすい環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携医と医療機関のソーシャルワーカーと連携をし情報交換を密に取りながら利用者がスムーズにホームへの復帰が出来るように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化時における医療サービス提供内容に関する指針」を入居時に説明し同意を頂いている。その上で家族・利用者の希望を考慮し、主治医と相談し、職員へ説明し理解を求めながら看取りも行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアル・提携医や管理者への連絡体制等を整えている。また日々の業務中で話し合いや説明を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に3回の防災訓練を実施している。消防署への報告時には意見をうかがいながら訓練に役立っている。月1回は利用者と一緒に階段誘導訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を否定する事のないように傾聴し尊重する対応等を心掛けている。居室に入る際にも必ず声をかけて入室している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	しっかりとコミュニケーションを取りながら、言葉だけでなく表情も観察しながら自己決定が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の気持ちや体調等を考えながらその人らしい生活の支援を日々考えて取り入れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を利用し、利用者の好みに合わせた髪形にしてもらう。希望者には、今まで通っていた理美容室も可能である。現在はコロナ禍で中止。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る限り手作りで提供している。一緒に作ったり、作り方を教えて頂く事もある。食事の様子や日々の中でのつぶやきもメニュー作りの参考にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の接種量の把握をしている。接種量が少ない利用者には出来るだけ好みの物を提供出来るような工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回訪問歯科を利用し、口腔ケアをおこなっている。また必要な時は治療も行っている。歯科衛生士からの指導を取り入れ、利用者の口腔ケアの介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄リズムの把握に努めながらトイレ誘導を行っている。出来る限りの自立を目指し、職員へは、日頃から自立支援の指導をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や運動の支援を行っている。水分補給もしっかりと摂取できるように飲み物や食事の内容を工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調を考慮しながら1日置きの入浴を実施している。季節や好み入浴剤を使用したり、会話を楽しんだり、心地よい環境作りに努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の希望の飾りや今まで使っていた家具等を配置し、少しでも安心できる環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬内容の理解をする。特に薬に変更があった場合等には副作用等も考えながら様子観察を行い。変化があった場合には提携医に連絡が取れる体制を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや軽作業等を職員と一緒に行事で、新たな発見を見つけている。行事等では好きな事を取り入れ楽しんで頂ける内容にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と相談し出来る限りの外出支援はしている。また日々の生活でも散歩や買い物などの外出支援を行っている。現在はコロナ禍で外出は中止。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は基本的に管理者が管理している。不安がある利用者にはその都度の説明をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて電話は使って頂いている。利用者の代わりに電話を掛ける場合や手紙の代筆も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはテーブル席とソファ席がある。また皆さまで作成した季節の飾りや行事の写真等を飾り、ゆったりと過ごせる環境作りをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには食事用のテーブルとソファを設置している。食事以外の時間ではソファで気の合う仲間でも過ごす事が出来る工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には今までに使っていた家具や飾りや家族の写真等を飾り、落ち着けるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで、リビングの壁には手すりを設置している。危険のないように見守りや付き添いをしながら少しでも自立出来る工夫をしている。		